

令和7年度第1回物部川地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和7年10月22日（水）9:30～11:00

場所：香美農林合同庁舎 1階 大会議室

出席：委員20名中、16名が出席（代理出席4名含む）

議事：（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

（2）地域アクションプランについて

1）物部川地域アクションプランの進捗状況等について

2）物部川地域アクションプランの修正（予定項目）について

（3）産業成長戦略について

産業別若者所得向上検討チーム報告書について

議事（1）～（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

（2）地域アクションプランについて

1）物部川地域アクションプランの進捗状況等について

2）物部川地域アクションプランの修正（予定項目）について

(No.4 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取り組み)

(杉村委員)

当事者として補足する。

昨年度までは、生産羽数・売上額ともにコロナの影響もあり大幅に落ち込んでいたが、畜産試験場、中央家畜保健衛生所、高知県中小企業団体中央会、県（地域本部）の支援を受けながら、毎月のように会議を重ね、現状分析と課題整理、今後の方向性について議論してきた。その結果、大分改善してきている。関係機関の支援に感謝している。

加えて、シャモ研究会に新たに40代前半の若いメンバーが2名加わった。また、地域おこし協力隊の募集にも応募があり、今月末に面接予定。意欲ある方のように期待している。

今後はこうした若い人材に事業を引き継ぎつつ、組織の若返りを図り、PRにも力を入れ、さらなる事業拡大を目指したい。引き続きよろしく願います。

(平山座長)

前回の時点では課題が多く、厳しい状況という印象だったが、今回は前向きに改善が進んでいるとの報告を聞いて安心している。体制づくりが順調に進むことを期待しているので、引き続き取り組みをお願いしたい。

(No.6 ものづくりサポートセンターを核とする中心市街地の活性化)

(No.12 南国市の地域資源を活用した観光の推進)

(近藤氏 (白山委員代理))

南国市観光協会として、観光の状況とお礼、課題について報告する。

夏以降、まち歩きツアー客が大幅に増えている。特に「ごめんまち歩き」の利用増加が顕著。県や物部川 DMO 協議会 (以下「DMO」) が県外で商談会を行っている成果だと考えている。大手だけでなく、鳥取や九州など地方の旅行会社からの申し込みも増加し、10 月に入りさらに急増した。1 日に 130 名のまち歩き予約が入り、ガイド総動員の日も出てきている。

定時ガイドもチラシや SNS などの工夫により、1 日平均 3 名だった利用が、現在 5 名程度まで増え、改善傾向にある。

また、8 月から台湾で「あんぱん」が放送され、県の PR とあわせて台湾からの来訪者が増えている。台湾のテレビ局のウェブ版で、やなせたかしゆかりの地の特集が 2 度配信され、その影響もあり、最近、案内所にも台湾からの観光客が立て続けに来ている。四国八十八カ所巡礼を目的とした旅行者も増えており、11 月までに全寺を巡る方もいるなど今後さらに増える見込みがある。

ポケットクその他、台湾語のパンフレット (観光コンベンション協会や DMO 作成) も活用させてもらっているが、まち歩きの申し込みがあった際、言語対応が課題で、資料だけでは十分でない。高知 SGG 善意通訳クラブや地域通訳案内士と協力し、通訳ガイドサービスが収益を伴う形になるよう商品造成したいと考えている。今後も情報提供や協力をお願いしたい。

一方で、中心市街地では店舗が少なく、お金が落ちにくい状況が続いている。移住支援や事業承継支援はあるが、まだ十分な成果にはつながっていない。飲食店は特に効果があるので、関係機関にさらに踏み込んだ支援を期待したい。

(平山座長)

非常に明るいご報告で心強い。秋口に団体客が戻ってきているということが見て取れていたが、本日のご説明で裏付けられた。私も最近、団体バスが停まっているのを見て、観光客が訪れ始めていると感じていたところ。

中心市街地の課題は長年のテーマであり、今後も一緒に取り組んでいきたい。やなせたかしロードの景観整備も進めていく予定で、その取り組みと合わせて活性化を図っていければと思う。

(No.2 南国市野菜の生産拡大及び地産地消・地産外商の推進)

(北委員)

資料に記載のある給食用食材は南国市だけの取り組みか。せっかく 3 市で協議しているので、南国市だけでなく、香美市や香南市にも供給して、流域全体で地産地消ができれば良いと思う。

また、今は米の価格が上がっており、給食にも影響があると思う。南国市は昔は米どころだったので、野菜だけでなく米についても、香南市が取り組んでいる特別栽培米のような形で広げていけると良いと思う。

(江口地域産業振興監)

南国野菜のプランなので基本は南国市の取り組みである。ただ、各市で同様の地産地消が進んでおり、特別栽培米は香南市で積極的に取り組まれている。

(濱田副座長)

参考として、香南市では10月7日から保育園・小中学校の3,800食すべてを市産の特別栽培米に変更。地元産のじゃこやシイラなども活用している。メニューのバランスや給食センターの運用など課題はあるが、ゆくゆくは広域でもできれば良いのではないかと考える。

(平山座長)

香南市の特別栽培米を広域で利用する取り組みは望ましいが、農家の思いや地域事情もある。まずは各自治体で進めつつ、不足分を補い合う形で広域連携が進むと良い。仕組みづくりも課題だが、今後、対応できればと思う。

(三谷委員)

先週、高知市内で法人会の全国大会があったが、会場周辺で「昼ごはんはどこで食べるのか」という質問が多かった。しかし、高知駅周辺は食べる場所が少なく、非常に混雑しており、結局は参加者がコンビニでおむすびを買う事態になった。食を売る高知県で、チャンス逃している状況に非常に残念な気持ちになった。

また、香美市、香南市、南国市にも食事場所が不足していると感じており、特に香美市は宿泊施設も少ない。東京や大阪から移住してきた人たちが店を開きたいという声もあり、例えば大阪からの移住者が香美市で7年以上営業している居酒屋がある。そうした方々に対して、もっと支援ができればと思う。資金面や商工会のサポートだけでは限界があり、県としても支援の体制を整えてほしい。さらに、食材が豊富な高知県に魅力を感じて店を開きたいシェフが多いので、食材全体の補助や支援ができる仕組みがあれば、多くの方が挑戦しやすくなると思う。

(江口地域産業振興監)

移住者が店を構えることに関しては、中心市街地活性化のアクションプランの中でも「チャレンジショップ制度」があり香美市では来年度に再開する予定。また、商工労働部経営支援課ではチャレンジショップからの創業支援や補助メニューを設けているので、そうした支援を活用してもらいたい。

観光分野では飲食店の不足が課題で、南国市が作成した飲食店マップを使って周知を図っている。また、市外から来た方の創業を支援することで少しでも課題解決を図る必要がある。香美市では移住支援も強化されており、これらの施策を絡めて解決策を考えなければならない

い。

(吉井氏 (岡村委員代理))

香美市では「かみくる」というガイドブックを新しく発行し、その中でランチを特集している。ガイドブックは非常に好評で、9月に再版を行い、今年度は3万部を配布する予定。

また、秋の行楽シーズンに向けて団体客が増えており、特に旅行会社のツアーや県内外の研修旅行などで香美市を訪れる人が多くなっている。アンパンマンミュージアム周辺を訪れるお客さんからもガイド依頼が増えているが、昨年度にガイドを育成しており、全ての依頼に対応できる体制が整っている。

(No.6 ものづくりサポートセンターを核とする中心市街地の活性化)

(門脇委員)

飲食の話について、最近、米子に行ったとき、駅周辺に昼間に営業している飲食店がほとんどなくて困ったが、駅近のモールには飲食店やカフェなどがあった。南国市には駅近で食事できる場所がないのが現状だ。安芸や田野には駅近に美味しい店がたくさんあるためその違いが気になる。駅近に飲食店があれば便利だと思う。

(江口地域産業振興監)

南国市の中心市街地活性化のアクションプランでも、人の動きを作ることが課題になっている。ものづくりサポートセンターには年間で約7万人、今年度は8万人以上の方が訪れているので、こういった施設と連携して、人を動かす仕組みを考える必要がある。

(平山座長)

南国市には駅の近くに施設がなく、課題になっている。チャレンジショップを少し試していたが、今はできなくなっている。今のところ店舗を開設するための有効な方法はない。商工会会長も居酒屋の昼営業を働きかけてくれているが、なかなか進んでいない。

(杉村委員)

夜間営業している店に昼間営業できないか働きかけたが、ほとんど反応がない。個別に当たって一軒だけ対応してくれたが、他は「人件費がかかりすぎる」「儲けにならない」といった反応で非常に難しい。

(平山座長)

何か課題があってできないのだと思うが、それを解決するヒントがあればいいと思う。杉村委員が進めてくれたのは、ものづくりサポートセンター周辺だと思うので、昼間営業していただければ何らか反応はあるはず。そういうことも考えながら、南国市も取り組んでいきたい。

(No.1 日本一のニラ産地拡大による地域農業の活性化)

(No.14 香南市におけるスポーツ・体験観光等の取り組みの推進)

(森尾氏 (丸岡委員代理))

まずニラについて、八丈島から定期的に購入してくれるお客さんがつき、こういう方が増えると良いと思う。

観光施設の入込は、「あんぱん」効果で絵金蔵などにも来訪者が増えており、DMOのセールスのおかげだと思っている。

また、スポーツ体験観光として、10月2日にトレイルランニングレースを開催した。ヤ・シィパークを拠点に、夜須の羽尾までの33.7キロコースで、第3回目の開催。エントリーは259名、当日出走者は235名で、完走率は81.2%だった。県外からの参加者やリピーターも増え、地元食材を使ったエイドステーションも好評だった。

今後は今回の反省点を生かして、地域に喜ばれ、宿泊や買い物など、より経済効果も生む大会となるよう、継続して開催していきたい。

(No.9 土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化)

(近藤委員)

香美市のえびす商店街では新規開業が増えていると感じている。空き店舗が多い中でも数軒が新規開業しているので、どう課題をクリアして貸し出しや売却につながったのか分析すれば、次の支援につながると思う。ぜひ取り組んでもらいたい。

(江口地域産業振興監)

香美市では「ふらっと中町」を建て直しており、チャレンジショップ制度を続ける方針。市民が集まる機能も持たせながら商店街と連携し、取り組みを進めている。今後は移住者支援とも組み合わせられたらいいと考えている。

(No.7 香南市中心市街地の振興)

(畠中委員)

野市駅周辺に全国、海外からも来てもらえる「どろめ市場」を作りたいと考えている。香南市といえば「どろめ」。そして飲みニケーションが一番大事だと思う。公共交通機関を利用して訪れやすい場所であり、高知市の「ひろめ市場」に対し東部で「どろめ市場」をやってみたい。もちろん補助金を活用し、行政や市長にも協力いただき、来年度の実現に向けて可能な限り取り組んでいきたい。

(江口地域産業振興監)

ぜひ実現してほしいと考えている。観光の起爆剤になると思うので、一緒に考えていきたい。

補足だが、地域アクションプランは以前は300事業ほどあったが、現在は156事業となり、

新しい案件が少なくなっている。食品加工や観光など既存の事例はあるが、今後は新しい取り組みを掘り起こしていく必要がある。夏には商工会や金融機関に地元案件の発掘を依頼した。どろめ市場のような地域資源を活用した事業は適しているので、情報があればぜひ相談してほしい。

(3) 産業成長戦略について

産業別若者所得向上検討チーム報告書について

(門脇委員)

若者の所得向上や定着が課題だと思っている。最近、神奈川から移住してきた方が「高知は賃金が低く、物価も家賃も安くないのにどうやって生活しているのか」と驚いていた。県外から見れば不思議に思われる状況で、自分も現実を見直す必要があると感じた。

若者はどこでも必要とされており、条件の良いところへ転職してしまう。経験が少ないため、働きがいや学びに結び付かず、指導しても「ハラスメント」と受け取られることもあり定着率の低下につながる。

県内の好事例を共有し、同業種の企業見学やベンチマークができる仕組みがあれば、高知モデルを育てることができると思う。私も参加したい。

また、「創発」も重要。今はまだ価値が見えていないものを生み出す力は、学生時代の経験を通じて育まれる部分が大きいのと感じる。国が進めているアントレプレナーシップ教育のような取り組みも重要なのだと、話を聞きながら思った。ぜひ検討してほしい。

(江口地域産業振興監)

好事例を横展開することは非常に重要。今回の成果をもとに、他社が導入しやすい仕組みづくりを考えていく。予算編成の時期でもあるので、来年度に向けて、見学などの具体的な仕掛けも検討したい。産業部局とも連携しながら進める。

(近藤氏 (白山委員代理))

関連して発言する。ここに書かれている方向性は王道。企業の収益力を高め、人件費をしっかり出していくことは重要。ただ、高知県は99%が中小・零細事業者で、最低賃金の確保すら厳しいところも多い。

一方で、高知は共働きが多く、個々の給与は大阪より低くても、共働きが多く世帯収入では上回る場合もある。地域のつながりの中で生活を支えてきた面もある。

そうした状況を踏まえると、一つの会社に限定せず、複業など複数の仕事を持つ働き方も重要だと思う。柔軟な働き方ができる環境を整えれば、企業が爆発的に儲けなくても、個人の収入を高める道筋がつくれると考えている。事業成長だけでなく、働き方を通じた収入向上の視点も検討いただきたい。

(江口地域産業振興監)

担当課とも共有し、複業の取り組みも投げ掛けてみたい。

(古川委員)

香南市でニラ農家をしている。資料を見ると、農業分野の対象は売上5,000万円以上の経営体となっており、かなり大規模で、施設も大きく、外国人を多く雇う経営だと考える。改革の方向性を見ると、今後さらに規模拡大を進める方向が中心になっているように感じる。そうすると、大規模経営がより大きくなり、外国人材をさらに受け入れる農業の形になっていくと思う。

全国的な流れなので止めにくい面はあると思うが、若者の所得向上を目的としている以上、高知県内の若者の所得を上げる方向で進めてほしい。外国人だけでなく、県内の若者を農業に呼び込み、農業の世界を広げていける施策もあわせて検討してほしいと考える。

(江口地域産業振興監)

これは企業的農業の視点でまとめているため、この形としているが、今の意見も本庁に伝える。

(以上)